

高麗の郷

百濟滅亡に引き続き、六六八年には高句麗が滅びて、朝鮮半島は新羅によって統一された。その際、高麗王若光（こまおうじゃっこう）は一族を引き連れて日本に亡命、朝廷の指示で 大磯に上陸、花水川を遡り日向に移住したといわれる。

大磯高麗神社： <http://www.kuniomi.gr.jp/geki/iwai/oosokoma.pdf>

日向の白髯神社： <http://www.kuniomi.gr.jp/geki/iwai/sirahige2.pdf>

その後、各地に散在して、この地方の人たちに、鍛冶、建築、工芸など各種の技術を伝えた。若光は高德の人で、文武（もんむ）天皇から従五位下の位と「王（こきし）」の性を賜った。若光の落ち着いた先が「高麗の郷」である。

「高麗の郷」というのは、現在は埼玉県入間郡日高市、旧は高麗（こま）郡高麗（こま）村のことである。そこに有名な高麗（こま）神社がある。祭神は、猿田彦大神（さるたひこおおかみ）と高麗王若光（こまおうじゃっこう）である。宮司は、高麗王若光の第六十代目子孫である 高麗さん である。猿田彦大神は、今ではこんなことを気にする必要性は全くないが、もともとは新羅系渡来人の神であるという。開拓の神である。

「高麗の郷」高麗神社： <http://www.kuniomi.gr.jp/geki/iwai/komajin.pdf>